

稲・大豆作情報（NO. 5）

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月28日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m ²	本 年	77.4	451	11.2	45.2	7月5半旬も雨天が続いたため、平年より気温は低く、日照時間も短く推移した。草丈、茎数は中晩生品種で短く、少ない傾向にある。また、葉色は濃い。 「夢しずく」では幼穂長1mmとなっている。 ※一部、「さがびより」「ヒヨクモチ」でガス湧き・スクミリンゴガイの被害あり
		平 年	75.8	375	11.5	39.9	
		平年比	(102)	(120)	(-0.3)	(113)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m ²	本 年	55.7	403	10.8	41.5	
		平 年	68.1	512	11.9	40.0	
		平年比	(82)	(79)	(-1.1)	(104)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m ²	本 年	35.0	205	9.2	44.3	
		平 年	47.3	621	11.7	42.4	
		平年比	(74)	(33)	(-2.5)	(105)	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

「夢しずく」は、穂肥診断結果を基に穂肥施用の判断と水管理の徹底をおこなう。
中晩生品種は、引き続き、生育量の確保を第一に管理する。

○今週の管理

夢しずく

- ・ 幼穂形成期（幼穂長1mm）をむかえ始めており、穂肥施用の時期となっている（昨年より7日程度遅い）。出穂は、お盆明け頃の見込み。
- ・ 穂肥施用時（幼穂形成始期）は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。
- ・ 穂肥は下記の診断結果を基に施用する。また、幼穂形成期以降は、要水量が多い時期であるので強い水分ストレスを与えないように注意する。

【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期 の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20~22日	1mm	2.0	12.5
	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施 用 し ない			
73~79cm	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施 用 し ない			
80cm以上	施 用 し ない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

さがびより、ヒヨクモチ

- ・有効茎が確保できていない圃場が大部分と思われるが、有効茎が確保できた圃場では、中干しを開始する（目安は前回記載の通り）。中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度で1週間程度実施する。
- ・有効茎が確保できていない圃場は引き続き、浅水管理で分けつを促す。

○病害虫情報(発生および防除)

◆トビイロウンカ

- ・発生状況は圃場によって異なるため、圃場の発生状況をみながら防除時期を決定する。
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるようにいねいに散布する。
- ・防除は、発生予測を参考に行う。

農技防 HP 参照：病害虫情報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

※第1回目の防除適期(7/23~8/5)は、箱施薬剤を施用していれば、定着数はかなり少ないと考えられるが、7/7 飛来が非常に多く確認されている。第1回目防除の必要性は、現場での発生状況を確認し、判断することが望ましい。

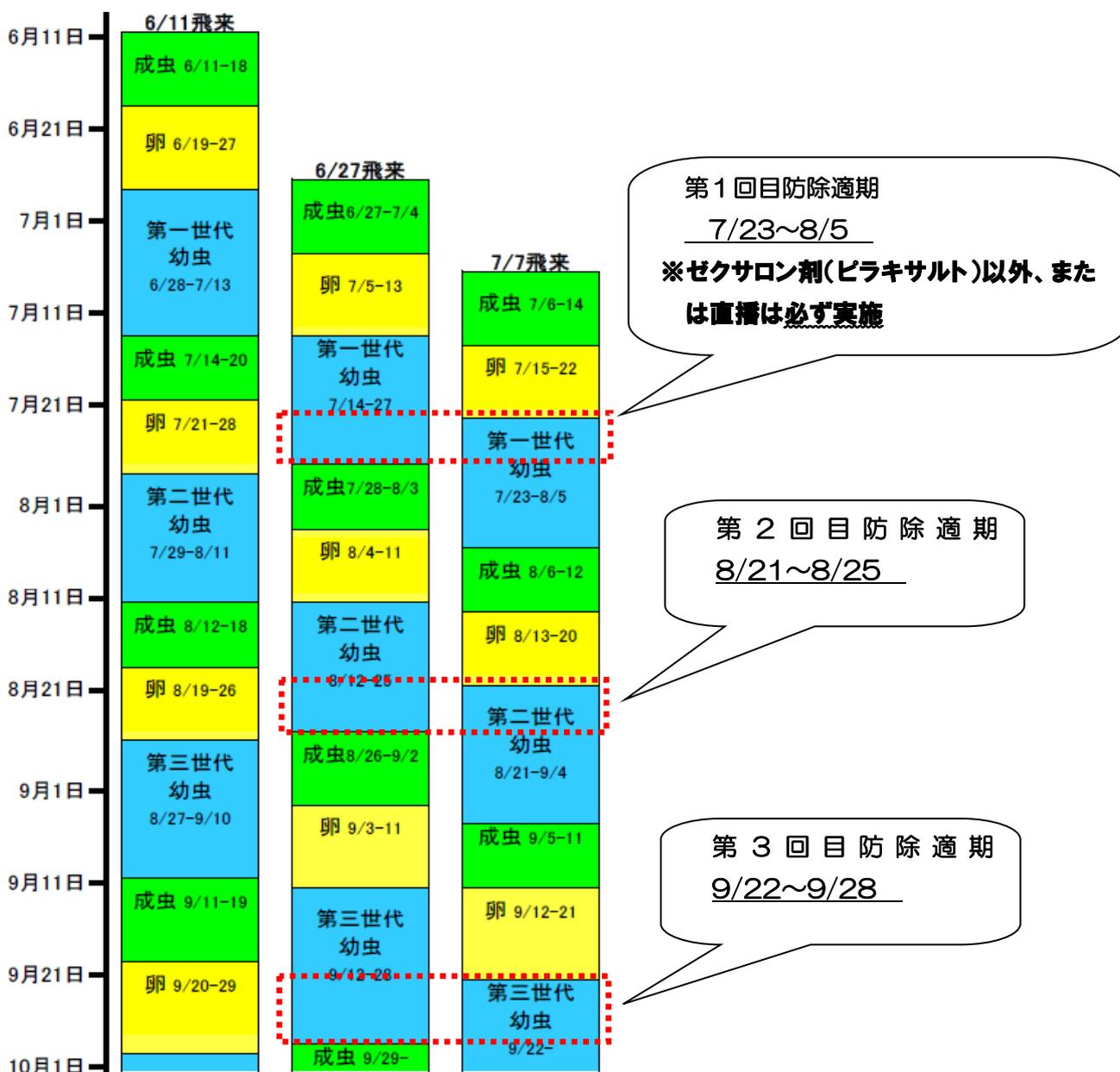


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2020年7月16日作成)

◆いもち病

田廻りを励行し、初発段階での防除を心掛ける。特に、いもち病はやや低温で推移しているため注意する。病斑が上位葉に発生しているようであれば、早急に防除を実施する（オリゼメート粒剤など）。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

分けつが遅れているため、発生は少ないと思われるが、田廻りを励行し、初発段階での防除を心掛ける。幼穂形成期以降、気温が高い日が続く場合は、発生に注意する（モンカットフロアブルなど）。



▲紋枯病

3. 大豆管理

降雨が多く、滞水がみられる圃場が多い。
落水を促し、圃場環境の改善に努める。

○播種

これから播種や再播種を行う圃場が多いと思われるが、下表を参考にす。播種後1週間以上経過しても発芽していない圃場は再播種を検討する。

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1 株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月28日～	27本	75 × 11 × 2	8.0	BB480を40kg/10a (生育量確保のため行う)

・播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される時や、土壤水分が多い場合→2cm程度の浅め 鎮圧はしない
播種後1週間以上好天が予想される時や、土壤が乾燥気味の場合→4cm程度の深め かつ 鎮圧する。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

